

【さいたま市史 通史編 原始・古代Ⅰ】

口絵写真

発刊にあたって

はじめに

凡例

目次

第一章 旧石器時代

第一節 旧石器時代のあらまし

コラム 「更新世と完新世」

第二節 人類の誕生

一 猿人の出現から新人の登場まで

(一) 石器作りの始まり

(二) アフリカからの旅立ち

(三) 環境への適応

コラム 「化石人骨のはなし」

(四) ホモ・サピエンスの東アジアへの進出

二 日本列島にたどり着いた人たち

(一) 日本列島への三つのルートと上陸地

(二) さいたまの地へ

コラム 「前期旧石器時代遺跡ねつ造事件」

第三節 さいたま市の旧石器時代

一 大宮台地の地形と環境

コラム 「酸素同位体」

二 火山灰とローム層の堆積

コラム 「始良丹沢火山灰（AT）」

三 旧石器時代の遺構

四 石器石材

五 旧石器時代の道具箱の中身

コラム 「石器の製作技術」

六 石器群の変遷

七 さいたま市の後期旧石器時代遺跡の概要

八 第一期の概要（後期旧石器時代前半期前半）

(一) 芝川流域と台地南端部の遺跡

(二) 滝沼川流域の遺跡群

- (三) 大宮台地最古の遺跡 明花向遺跡
 - (四) 環状ブロック群と台形様石器
- 九 第二期の概要（後期旧石器時代前半期後半）
 - (一) 芝川下流域と台地南端部の遺跡群
 - (二) 大宮台地西縁部の遺跡群
- 一〇 第三期の概要（後期旧石器時代後半期前半）
 - (一) 芝川下流域と台地南端部の遺跡群
 - (二) 芝川左岸と綾瀬川流域の遺跡群
 - (三) 芝川中流域の遺跡群
 - (四) 滝沼川流域の遺跡群とその他の遺跡
 - (五) 三つの石器群
 - (六) 黒曜石の原石
 - (七) 国府型ナイフ形石器
- 一一 第四期の概要（後期旧石器時代後半期後半）
 - (一) 芝川右岸と台地南端部の遺跡群
 - (二) 台地西縁部と滝沼川・鴨川流域の遺跡群
 - (三) 砂川期と月見野期
- 一二 第五期の概要（後期旧石器時代終末期から縄文時代草創期）
 - (一) 井沼方遺跡の石器群
 - (二) 西大宮バイパスNo.4 遺跡のデボ
 - (三) 西大宮バイパスNo.2 遺跡の石斧
- 一三 石器石材の変遷
- 一四 遺跡数の動態
- 一五 旧石器時代人の生活
 - (一) 衣
 - (二) 食
 - (三) 住
 - (四) 活動範囲
 - (五) 舟
- 一六 旧石器時代から縄文時代へ

第二章 縄文時代

第一節 縄文時代のあらまし

第二節 土器を使い漁労も加わる文化 ―縄文時代初頭の様子

- 一 気候の変化と地形・動植物
- 二 さいたま市最初の縄文遺跡
- 三 撚糸文系土器と大宮台地
 - (一) 稻荷原式土器

四 定住へ

五 土器からわかる南関東での発展と他地域との交流

- (一) 沈線文系土器と条痕文系土器
- (二) 貝殻文が始まり盛行する一浜を生産の舞台に
- (三) 他地域との交流－押型文土器から見て

六 狩猟も盛ん－罾を仕掛ける

七 早期の石器

第三節 海浜さいたまの時代

一 海進とさいたまの地形

二 屋外炉ファイヤーピットの大流行

三 ハイガイは語る

四 貝塚とは

コラム 「大山柏と貝塚調査」

五 さいたま市の早期・前期貝塚分布と主な貝塚

- (一) 荒川低地周辺
- (二) 芝川低地周辺
- (三) 綾瀬川低地周辺
- (四) 元荒川低地周辺

六 貝塚から何がわかるか

- (一) 大谷場貝塚からわかる当時のムラの構成や葬送の儀礼
- (二) 太田窪貝塚の第七号住居跡

七 円正寺縄文人とそのルーツ

八 生活の場、用具から信仰

- (一) 早期中葉から前期の住居跡
- (二) 縄文時代前期の土器
- (三) 片口注口土器や浅鉢形土器など器形の分化
- (四) いろいろな石器
- (五) イノシシの頭骨が教えるもの
- (六) 縄文時代早期・前期の土偶
- (七) 二つの岩偶
- (八) 装身具など

九 やがて過疎に－狩りをする人々の軌跡と内陸地域の漁労

コラム 「松木土偶」

コラム 「三友國五郎」

第四節 縄文時代中期 再び定住へ、そして集落形成へ

一 人々の動きの中で

- (一) 移動と定住－五領ヶ台式土器を持つ人々と土偶

- (二) 大宮台地は文化の十字路
- (三) 阿玉台式土器と勝坂式土器文化
- (四) 火炎土器と大宮台地
- (五) 加曾利 E 式土器とは
- (六) 剣先文土器文様の系譜
- (七) 連弧文土器は何を語るか
- (八) 縄文時代中期の大集落跡―櫛谷遺跡
- (九) 家の形は多角形も
- (一〇) “加曾利 E 海進、と貝塚

二 土器から見る生活と信仰

- (一) 土器文様の単純化は、生産性の安定化・雑器としての土器
- (二) 埴甕という風習

三 石材のない地での石器

四 柄鏡形住居跡の時代へ

コラム 「大戸本村 1 号遺跡の有孔鏝付土器」

第五節 南鴻沼遺跡の時代 ―縄文時代後半の生活が見える

- 一 さいたま市の低湿地遺跡
- 二 南鴻沼遺跡が語るもの
- 三 南鴻沼遺跡の植物利用
- 四 生産・生活用具と製品
 - (一) 木製品と樹種
 - (二) 漆生産と製品
 - (三) 編み物
 - (四) 丸木舟とは

コラム 「主食はクリ、クルミ、トチ」

第六節 環状盛土の時代 ―縄文時代の後半を飾る拠点集落

- 一 縄文時代後期・晩期の盛り上がりを持つ遺跡
 - ―馬場小室山遺跡・氷川神社遺跡
- 二 縄文時代後期・晩期の住居跡
- 三 土坑各種
- 四 いろいろな形の土器
 - (一) 釣手形土器と異形台付土器
 - (二) 切断壺形土器

第七節 さいたま市ブランド ―安行式土器文化とは

- 一 安行式土器とは
 - (一) 真福寺貝塚

(二) 精製土器と粗製土器

(三) 製塩土器

(四) 土偶装飾土器

二 最高傑作・傑作・佳作作品など

(一) 真福寺貝塚のみみずく土偶

(二) 傑作「亀形土製品」とその類例

(三) 人面画土器が語るもの

(四) 縄文時代後期・晩期の土偶

(五) 土版について

(六) 動物形などの土製品

(七) 土製耳飾

(八) 不思議な石製品—石棒、石剣、独鈷石、石冠など

コラム 「洋行組—大英博物館に行ったみみずく土偶と人面画土器」

コラム 「膝子遺跡の丸木舟」

第八節 縄文時代の終焉

一 安行式土器文化消滅直後の時代

二 大宮台地の晩期終末の遺跡

(一) 浦和支台の晩期終末の遺跡

(二) 晩期終末を代表する浮線文土器と遺跡

(三) 岩槻支台の晩期終末の遺跡

三 さいたま市の縄文時代晩期終末と弥生時代

文献一覧

索引

執筆者一覧

協力者及び協力機関一覧

市史編さん関係者名簿

あとがき